

# かずさの博物誌

## イソヒヨドリ

～上総の市街地に進出？～

文・写真／成田篤彦

2017.4.20



©成田篤彦

「イソヒヨドリ？」とバイクをためシャッターを切りました。小鳥が完成したばかりの真っ白なセメント石垣の上のわずかな草地でえさをつまんでいます。

カメラの液晶画面で見ると大きさと姿はツグミとそっくりです。しかし、背は灰色味を帯びた空色、つばさは黒、腹は黒みかかった赤ですが、カラフルで美しい。まぎれもなくイソヒヨドリのオスです。

今月の初旬、台地の市街地の坂道でのことです。

そういえば先月、台地のスーパーマーケット駐車場の家の裏庭で一羽のイソヒヨドリのオスがえさをついばんでいました。小櫃川からは約1キロ離れています。

「こんな市街地の中にも来ているの？」と驚きました。

ちなみに、メスはこげ茶色に木肌

▲イソヒヨドリのオス 土手でえさをとる=2017年3月31日 木更津市



▲イソヒヨドリのオス若鳥=2008年10月10日 富津市



©成田篤彦

▲イソヒヨドリのメス 海岸の護岸にいた =2011年9月19日 木更津市 筆者撮影

色のうるこ状の斑紋が一面にあり、とても地味です。メスが瓦の屋根や枯れ木のそばにいとまらず、気づきません。

この小鳥は姿も美しく、鳴き声は甘く澄んだ複雑な鳴き声なので、ファンも多い小鳥です。

イソヒヨドリは名前のように、上総では富津岬のテトラポットや東京湾の港などの海岸で四季にわたって見られますが、数はそう多くありません。彼らは、岩場の隙間に巣を作り、岩礁などでフナムシや昆虫、雑草の種などを食べて生活します。

また、上総の埋立地の工場などにも巣を作っています。

小櫃川の流域では、秋から冬にかけて十日市場や菅生や上総松丘などのコンクリートの建物や鉄塔などではしばしば観察していました。多くの場合はメスカ幼鳥でした。

しかし、今回は今までと違って、オスの成鳥です。しかも季節は春、ひよっとして近くでさえずって、巣を作るのでは？と期待してしまいます。



©成田篤彦

▲イソヒヨドリのオス 橋げたに止まる =2008年1月15日 木更津市

さて、日本ではイソヒヨドリと名がついているので、磯やその近くにのみ生息していると思いがちですが、ヨーロッパでは「青い岩場のツグミ（ブルーロックストラッシュ）」と言っています。

実は、近年、イソヒヨドリは日本の各地で都会に進出しています。

都市では、岩場と似ている、ビルや工場の隙間に巣をかまえ、残飯やそれに集まる虫、庭にいるカナヘビ、小果実などを食べて生活しています。

将来は、ハクセキレイのように上総の市街地の鳥になるかもしれませんね。



©成田篤彦

▲イソヒヨドリのメス 工場に営巣 =2017年4月16日 木更津市

memo

イソヒヨドリ

スズメ目ヒタキ科

千葉県指定要保護生物。

ユーラシア大陸の温帯～亜熱帯に生息。日本では岩礁地帯に普通に繁殖する。

参考文献

『山溪カラー名鑑日本の野鳥』  
山と溪谷社